

第三吾孺小学校 令和3年度 第3回 校長「語らいサロン」

テーマ 学習室『みどり』について

～「学校に行きたくない子どもたち」「集団になじめない子どもたち」～

1 「学校に行きたくない子どもたち」

不登校（小学校） = 年間30日以上欠席の児童数（人）

	全国（1000人あたり）	三吾小	13日以上
H30	84,033（7.0）	1（0.2%）	} 15～20
R元	90,089（8.3）	3（0.5%）	
R2	113,746（10.0）	7（1.4%）	

（長期欠席のうち小中学校における不登校）

- 小・中学校における不登校児童生徒数は **8.2%増加**。
- 在籍児童生徒に占める不登校児童生徒の割合は2.0%（前年度1.9%）。
- 過去5年間の傾向として、小学校・中学校ともに**不登校児童生徒数及びその割合は増加している**。
（小学校 H27：0.4%→R02：1.0%，中学校 H27：2.8%→R02：4.1%）
- 不登校児童生徒の65.7%の児童生徒が学校内外の機関等で相談・指導等を受けている。
- 不登校児童生徒数が**8年連続で増加**、**約55%の不登校児童生徒が90日以上欠席**しているなど、**憂慮すべき状況**。
- 生活環境の変化により**生活リズムが乱れやすい状況**や、学校生活において**様々な制限がある中で交友関係を築くことなど、登校する意欲が湧きにくい状況**にあったこと等も背景として考えられる。

「令和2年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要

（令和3年10月13日・文部科学省）」より

2 「集団になじめない子どもたち」

発達特性による得意・不得意（苦手）

得意なこと	苦手なこと
○文字情報、視覚情報	○耳からの情報、口頭の情報 →音声過敏
○普遍的な価値基準	○表情、心情、場の「空気を読む」
○社会規範	○状況に応じて変わる価値基準
○緻密な作業	○段取りを組む、企画・運営
○学校の勉強、試験、研究	○職場、恋愛
○機械、PCを使う	○友達、接客
○個人競技（マラソン、水泳等）	○団体競技（野球、サッカー等）
○真面目にコツコツ	○コミュニケーション、マルチタスク

3 学習室「みどり」の開設



○令和3年度学校経営方針

「個に応じた指導体制の工夫」として、1年かけて場・指導体制（人的配置）を整える計画



○5月、ランチルームの一面を「個に応じた指導」のできる場に決定。備品の整備。この教室の名称を教職員に公募。教職員、スクールカウンセラー、特別支援教室専門員らから10を超える案が寄せられる。

それらを総合して、校長が「学習室『みどり』」と命名。元になったのは、Green Roomというアイデアで、「控え室・楽屋」という意味のことばで、「本番（教室）の前でリラックスする」部屋に、という願いから。

○6月より、運用開始。人的配置がかなわず、自習室としてスタート。

○7月、学校予算でパーティションと観葉植物（「みどり」）を購入。現在までに、主に4、5名の児童が利用中。

○9月、「みどり」利用の注意作成

《学習室「みどり」のコンセプト》

- ・教室に入りにくい
- ・集団生活に参加できない
- ・クールダウンが必要
- ・休みがちな児童
- ・特別支援教室「まなびの教室」だけでは対応できない児童 など

→「不安」や「エネルギー不足（電池切れ）」 サボっているのではありません！



☆必ずしも、「教室に戻る」ことがゴールではなく、様々な学びの形態に学校は対応できるように変わっていくはず。その先駆けとしてのプロジェクトとしてスタート。